

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 21 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	教育旅行支援事業			
担当課係名	観光課	企画宣伝係	作成者	高橋精一
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織りなす交流拠点のまち		総合計画のページ 28、38
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし、グリーンツーリズムやエコツーリズムの推進		
	主要施策	観光客受入体制の整備、グリーンツーリズム及びエコツーリズムの推進		
予算費目	一般会計	7款 商工費	1項 商工費	3目 観光費
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	県外の中学校・旅行会社(仙台・北海道)の訪問
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	修学旅行や野外学習(農業体験、フィールドワーク、工芸品制作体験)で当市を訪れていただき、体験をとおして仙北市の魅力を感じてもらい、後年リピーターとなって再度仙北市を訪問するようにしたい。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	修学旅行や野外学習のPR及び体験学習等の手配など。

【事務事業の推移】

		項目	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	
効果	活動指標	学校・各エージェント訪問回数	目標	件	200	220	220
			実績	件	199	205	219
			達成度	%	99.5%	93.2%	99.5%
	成果指標	修学旅行他受入団体数	目標	件	80	80	80
			実績	件	58	70	85
			達成度	%	72.5%	87.5%	106.3%
投下コスト	項目		総事業費	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	21年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)			1,821	1,808	1,592	
	人件費(B)			8,071	4,755	4,834	
	職員数			1.00	0.60	0.60	
	職員平均人件費			8,071	7,925	8,057	
	(A)+(B) 投下コスト			9,892	6,563	6,426	
	財源内訳	国庫支出金			0	0	0
		県支出金			0	0	0
		地方債			0	0	0
		その他			0	0	0
		一般財源			9,892	6,563	6,426
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			49,709	32,015	29,342	
	市民1人当たりのコスト(円)			315	211	210	

【事務事業の今までの成果】

仙台市内の中学生（２年生野外活動）や札幌市内の中学生（修学旅行）を中心に訪問校が増えつつある。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	行政刷新会議で農山村交流プロジェクトの予算が削られたが、県の方で継続することで予算がつけられた経緯がある。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	農山村活性課が窓口になっている部分と観光課が窓口となっている部分の情報共有化がされてない。そのため一本化を望む声がある。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 1	A 現状のまま継続（実施）	今年になって農家民宿が２軒増えたり受入体制に熱が入ってきている。官民が情報を共有し一本化されればもっとよくなるのではないだろうか。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

- ・受入施設の拡大、作業内容の均一化（受入農家の対応）。
- ・野外活動など仙台市内の中学校にPRしているが、盛岡からの問い合わせもあることから近隣県へのPRも必要と考えられる。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 1	観光資源が豊富であるほか、野外学習の受入体制も強化されてきており、他部署や関係団体との連携を強化し、窓口の一本化を図ることで更なる需要の増加が見込まれる事業であり、引き続き必要な改善を行いながら推進すべきと考えます。

